

## NZ・チリ材



川崎港の置き場は首都圏の資材供給拠点だ

主力品であるチリ産材は、チリ最大手アラウコから各配船で一定量を確保。入荷時期のずれといった混乱は生じたが、産地からの仕入れ、国内

## チリ材供給力と杉梱包で活路

## LVL・合板販売も伸長

## 瀬崎林業

瀬崎林業（大阪市、遠野嘉之社長）は、チリ産ラジアタ松製材品を主力としながら、2017年からは杉梱包材の提案に力を入れてきた。また近年では、九州の製材大手と連携し、内航船による杉梱包材の定期入荷を実現している。

21年のチリ材入荷乱れの際は、これまでの杉梱包材市場開拓の地道な活動が実を結び、杉の代替提案で梱包業者の需要に応えた。杉も建築用材高騰の影響

で仕入れコスト高や数量確保難に直面したが、九州の素材生産者と築いてきた協力体制により集荷面で強みを発揮できている。梱包用の中国産ポプラLVLは17年、ベトナム合板は20年にそれぞれ輸入を開始。現在では首都圏のみでLVLを月間1300立方

販売ともに適正価格の商いを重視してきた。22年も世界的な船舶市況の混乱は続くとの見通しから、アラウコとの連携体制を生かし、安定した仕入れを図っていく。

主力市場である首都圏では、川崎港に倉庫や熱処理施設も備えた

資材置き場を保有しているため、配船スケジュールの混乱による一時的な入荷増でも保管場所不足に陥る心配はなく、需給バランスに合わせた供給体制の維持が可能だ。21年はチリ材以外の梱包資材在庫もそろえ、各品目の流通不足に備えた。

安定供給を続けた。